

○ 卷上 中 一 札 入 事

○ 兼日被 作出通大小之百姓之人組と宛並

何事より以て人組と自之而法度相背は故也

不及中上悪事位との有るはくそ組の早速

中上も若隠並服不中出はくそ者ハ亦より

御褒矣不二人組との名をた曲事と云

作付首を畏ひ悪事位との中上より自然同類

視類縁者杯後日何と云かなんぞと氣をたひり

限密小中上中是又在畏の諸事一被吟味
同出次中沙江進中上中并服百姓家抱前
地店者をもて五人組と勘判形を並に中
善五人組外是中その由被ふく名主組既
曲事にて作付の事

○即年貢の儀一件未不及中惣令浪米減
形な小名引仕る友事

附り振初の由も證文を引中事

○即支配人派役元惣白の家中に元中迄名主百姓
對に依怙具負の由に元又未少分より先非分
成儀の由に云遠慮中上事

○諸役入目の儀毎年一村に目帳三冊宛り支配
人の合中宛り成儀の由に諸役入目と云高段の細
付並名主年寄百姓被不形名主方一冊百姓方
一冊宛り年切の勘定宛互に出入拾にて仕事

○名主百姓形の儀自分名替中なる由に善悪を以て